

脱炭素ビジョン内容にかかる確認・協議

1. 国立公園およびウトロ地域

【目指すべき地域の将来像】

知床の大自然と調和する

『SHIRETOKO ZERO CARBON』が実現しています。

(※第2回協議会提案：知床の恵みと調和する脱炭素を目指して)

景観や生態系の保全と脱炭素が両立する再エネの活用や、排出されるCO₂を減らす省エネや森づくりなど、知床の自然と調和を重視して脱炭素を推進します。知床での滞在や体験を通して脱炭素の視点からもサステナビリティへの「気づき」の機会を提供することで、自然と調和する脱炭素=『SHIRETOKO ZERO CARBON』を『SHIRETOKO! SUSTAINABLE』と呼応した斜里を特徴づける脱炭素の取組として、高く評価される知床の未来を目指します。

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ 温泉資源の持続的な活用を図りながら、温泉熱、温泉排熱が多様な熱源として段階的に利用されています。
- ✓ 景観や自然環境の保全に配慮した太陽光発電が行われ、エネルギーの地産地消が進んでいます。

●交通分野の脱炭素化

- ✓ ウトロ地域から国立公園内への移動には、電動の自動運転バスや E-バイク、電気自動車のレンタカー等が一般的となり、再生可能エネルギーによる充電施設の整備も進んでいます。

●自然を生かした脱炭素化、環境教育等

- ✓ 植林や森林の保全に地域内外から多くの人々が参加し、豊かな自然環境および吸収源としての森林が育成、保全されています。
- ✓ 知床の豊かな自然環境、様々な恵み、人々の暮らしなど、地域の多様な宝を保全する取組みに、観光客が積極的に参加し、サステナビリティの「気づき」を享受する質の高い観光プログラムが展開されています。
- ✓ 環境配慮への理解が宿泊者に浸透し、アメニティ等の使い捨てプラスチックの削減が進んでいます。
- ✓ 幅広い年齢層に向けて取組みが発信され、自然環境保全と脱炭素の取組みが一体となった気づきの場として、多くの人に体験学習の機会を提供しています。
- ✓ ゼロカーボンパークにも位置付けられることで、上記記載の取組が普及することで国立公園の脱炭素化が進むとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地づくりが実現しています。

2. 中心市街地

【目指すべき地域の将来像】

地域エネルギーを活かした安心安全なまちづくりが実現しています。

(※第2回協議会提案：地域資源を活かした安心安全なまちづくり)

脱炭素に向けた取組みが、防災レジリエンス^{*}の強化にも寄与し、暮らしの質や安心の向上に貢献しています。子育て世代や高齢者の暮らしの利便性を高める次世代交通が拡充し、冷暖房効率が高い高断熱の建物の普及による快適な住環境が普及するとともに、地域の資源を活用した再生可能エネルギーの地産地消が進んでいます。

※災害などのリスクに対する抵抗力や災害を乗り越える能力のこと

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ 公共施設や学校への太陽光発電や蓄電池の設置が進み、環境教育にも積極的に活用されています。災害時にはエネルギー自給が可能な避難所として、地域防災力の向上に貢献しています。
- ✓ 新築・リフォームによって、省エネ性能に優れた快適な住宅が建設され、自家消費型の太陽光発電の導入も進んでいます。
- ✓ 省エネ家電(LED照明、高効率給湯器等)が普及しています。
- ✓ 太陽光発電が設置された施設間で電力を融通しながら、エネルギーの効率的な利用が進んでいます。
- ✓ 地域で作られた再生可能エネルギー由来の電気を売買する仕組みが形づくられ、幅広い主体がエネルギーの地産地消に参加しています。
- ✓ 上水道設備を活用したマイクロ水力発電の設置等、環境保全を行いながら豊富な水資源をエネルギーとして活用する取り組みが進んでいます。

●交通分野の脱炭素化

- ✓ ICT（情報通信技術）の発達により、市街地を運行するコミュニティバスが利用者ニーズに合わせたダイヤ、経路で運行され、利便性が向上しています。

●ライフスタイルの転換、環境教育等

- ✓ 様々な媒体を通じて、幅広い年齢層に向けて取り組みが発信され、自然環境保全と脱炭素の取組みが一体となった気づきの場として、多くの人に体験学習の機会を提供しています。
- ✓ ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の発達により、二酸化炭素排出量や削減効果が暮らしの中で可視化されるとともに、効率的な選択肢がオンデマンドで提供されることにより、環境配慮と暮らしの質の向上が一体となったライフスタイルが普及しています。
- ✓ 自分らしい働き方（スローワーク）の価値観が普及し、テレワークやワーケーションが一般的となり、関

係人口の拡大とともに、電力需要の分散化が図られ、再生可能エネルギー由来の電力の最適化が進んでいます。

●まちづくりを通じた脱炭素化

- ✓ 主要な道路や市街地は徒歩や自転車ですぐ安全・快適に移動でき、町民との協働により緑にあふれた歩きたくなる空間が形成されています。
- ✓ 街路灯のLED化や再エネの活用により、省エネ性とまちなかの快適性・安全性が向上しています。
- ✓ **公共施設等の広域化・集約化、長寿命化、防災機能の強化**により、効率的な行政運営がなされています。

3. 中斜里地域

【目指すべき地域の将来像】

町民・事業者・行政の連携が強化され、
地域に裨益^{ひえき}※する再エネが普及しています。

※地域の役にたつ、利益になること。

(※第2回協議会提案：産官連携による地域裨益型再エネの普及)

町民・事業者・行政の連携強化のもと、**地域に裨益する再エネが普及**しています。町民、事業者、行政の連携が強化され、**公共施設と工場間で電力を相互利用する取組みが進んでいる**ほか、**エネルギー資源として木質、農業残渣、畜産バイオマスなどの活用**が始まっています。

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ **太陽光発電による電力や熱エネルギーが公共施設と工場間で相互利用する取組みが進んで**います。
- ✓ **一次産業から生み出される資源をエネルギー資源として活用する仕組みが形づくられ、それらを活用してエネルギーとして利用する取組みが進んでいます。**

●交通分野の脱炭素化

- ✓ 合成燃料や電力を活用する環境性能が高い大型配送車の普及が進むとともに、ICT（情報通信技術）の発達により、効率的な運用が行われています。

4. 農業

【目指すべき地域の将来像】

炭素実現による働きやすい生産環境が実現しています。

(※第2回協議会提案：脱炭素と安心できる生産環境・生活環境の同時実現)

脱炭素実現による働きやすい生産環境が実現しています。**省力化、負担軽減などの生産現場における課題が、脱炭素に貢献する先端技術の導入により解決が進み、働きやすい生産環境が実現しています。**

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ 農作業の自動化や生育情報の自動収集など、**スマート農業が実現し、生産コスト軽減と作業の効率化**につながっています。
- ✓ 農業生産が可能な形で**休耕地や資材倉庫等に太陽光発電パネル等が設置され、再生可能エネルギーの活用をしながら営農**が行われています。
- ✓ 合成燃料や電力を活用する環境性能が高い農業機械の普及が進み、相互利用の仕組みが形づくられています。
- ✓ ビートパルプなどの**農業残渣をエネルギー資源として活用する仕組みが形づくられ、エネルギーとして利用する取り組み**が進んでいます。

●自然を生かした脱炭素化

- ✓ 環境保全型農業が定着し、有機物の適切な農地への還元により、農地土壌への炭素貯留が図られています。

5. 漁業

【目指すべき地域の将来像】

脱炭素と両立する資源を守り育てる漁業が定着しています。

(※第2回協議会提案：資源を守り育てる持続可能な漁業を目指して)

脱炭素と両立する資源を守り育てる漁業が定着しています。海、山、川を一体のものとして、植樹や河川環境保全の取り組みが行われるとともに、先端技術の活用により省力化、負担軽減などの課題解決が図られ、効率的な漁業が営まれています。

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ 漁船運航や流通における効率化など、ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）などの先端技術を活用した取り組みの普及が進んでいます。
- ✓ 合成燃料の活用や省エネ性能の向上など、環境性能が高い漁船の導入が始まっています。
- ✓ 漁業残渣をエネルギー資源として活用する仕組みが形づくられ、エネルギー利用する取り組みが進んでいます。
- ✓ 省エネ性能の高い冷凍、冷蔵機器の普及が進んでいます。

●自然を生かした脱炭素化

- ✓ 山林や河畔林の植樹、河川環境保全の取り組みが定着し、多様な主体が参加しています。

6. 地域間連携

【目指すべき地域の将来像】

**地域間連携により
知床・東オホーツク圏域として脱炭素が拡大しています。**

（※第2回協議会提案：知床を軸とした地域間連携の深化）

本町は、知床半島に位置する羅臼町とともに知床国立公園の持続可能な管理に努め、その豊かな自然資源をともに享受しています。また、本町を含む斜里郡3町（本町、小清水町、清里町）や、網走市、大空町も加えた1市4町で東オホーツク定住自立圏として圏域とした地域づくりが進んでいます。脱炭素分野においても、行政区域にとらわれず、隣接する市町村とともに地域として効率的・効果的な再エネ導入の拡大、普及が進んでいます。

【実現が期待される脱炭素の取組】

●再生可能エネルギー（電気、熱）の活用、省エネの推進

- ✓ **再生可能エネルギー由来の電力、熱、バイオマス資源などが市町村間で融通、相互利用する仕組みが形づくられ、取り組みが進み始めています。**

●交通分野の脱炭素化

- ✓ **電気自動車の充電設備が市町村をまたいで効果的に設置され、住民、観光客による電気自動車の広域利用が進んでいます。**

●ライフスタイルの転換

- ✓ **ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）などの発達により、市町村が連携した遠隔サービスが充実し、利便性の向上や安心・安全な暮らしを実現する取り組みが進んでいます。**